

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

明るく、強く、きよらかに、生き抜く力を培う学校

- 1 安全・安心して児童生徒の可能性を最大限に伸ばし、「本物」と触れ合おうとする学校 →**触育**
- 2 教職員の役割と責任を明確にして、「高い専門性を有するプロ」をめざそうとする学校 →**職育**
- 3 例年通りから脱却し風通しの良さをめざし、「次世代育成の種」を植えようとする学校 →**植育**
- 4 共生社会の形成に向け、保護者・地域から信頼され期待される学校 →**自育**

2 中期的目標

1 安全・安心して児童生徒の可能性を最大限に伸ばし、「本物」と触れ合おうとする学校 →**触育**

(1) 環境の整備・改善、ヒヤリハットの活用で不用意・不注意な事故ゼロをめざし、**子どもファーストの充実**体制づくりに取り組む。

ア 「授業は教員の要の仕事」との意識で、PDCA サイクルを活用した、授業改善実践に取り組む。

イ 「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を更に有効に活用できるシステムの実践(カリキュラムマネジメントの確立)に取り組む。

ウ 「次期指導要領」の先行実践をめざし、新たな企画・実践(新スポーツ・文化・言語活動の推進)に取り組む。

エ 「教育環境」(ICT 関連含:タブレット、楽スタ(重力軽減訓練装置)、ロモーター(電動移動支援教具)等)の充実をめざし、ヒヤリハットの活用で不用意・不注意な事故ゼロに取り組む。

オ 「キャリア教育の一層の充実」をめざし、就労希望生の全員就労に取り組む。

2 教職員の役割と責任を明確にして、「高い専門性を有するプロ」をめざそうとする学校 →**職育**

(1) 個人主義ではなく、学校として一丸となった**チーム学校の促進**をすすめ、専門性向上に取り組む。

ア 学校運営にかかわる会議を一層スリム化する。ICT を活用した校務の効率化・円滑化についても取り組む。

イ 業務の見える化を心がけ、わかりやすい指示系統の組織(チーム)をめざし、適切な施設の安全及び危機の管理に一層取り組む。

ウ 新しく支援教育に携わる教員へのサポート体制の充実をめざす。

エ 全教員が学び続ける教員として外部講師も招き、「主体的、対話的に深く」学びあえる研究授業とその広報・発表の実践に取り組む。

3 例年通りから脱却し風通しの良さをめざし、「次世代育成の種」を植えようとする学校 →**植育**

(1) 指導支援に関する情報共有や公務推進のための風通しのよい組織風土づくり(**メンター・メンティの関係づくりの深化**)に取り組む。

ア 首席・指導教諭をはじめ、各教職員の適材適所での活用と、通勤方法・承認研修・サービスの適正維持に取り組む。

イ 茨木の初任者等自主研修の継続及び毎週定期的な学習会の円滑実施継続に取り組む。

ウ P T A や関係機関等と連携し、防災マニュアル(大災害時も含む)の見直しとライフライン断絶(下校困難)時の訓練に取り組む。

4 共生社会の形成に向け、保護者・地域から信頼され期待される学校 →**自育**

(1) 関係部署による校内体制の連携を図り**センター的機能の拡充**を行い、地域や各校種の学校に積極的な支援と連携を行う。

ア 50 周年(H31/9/28)の企画の具体化を進め、外部コンクール等に積極的応募し、その広報の充実を行う。

イ 「学校における医療的ケア実施体制構築事業」(国の委託)を継続し、医療的ケアの課題を明らかにしつつ、その充実のための実践を行う。

ウ 最新で適切な情報源としての HP・ブログの更新や、学校改善充実の取り組み広報を、積極的・継続的に行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 31 年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>(1) 「授業改善」「個別の支援計画・指導計画の有効活用」などに関してアンケート結果からは「授業改善」「新学習指導要領改訂」の肯定率が減少しているが、昨年度は、授業改善プロジェクトとして、「新学習指導要領の改訂」や「シラバスの作成」に向けた研究活動に力を入れた結果、大幅な肯定率増加が見られたため、前年度との比較という点での減少と推測される。</p> <p>また、今年度は指導主事を招聘して「全校研究(公開授業)」に取り組む、「主体的、対話的、深い学び」の授業改善に向けて一歩前進した。次年度も自主的な研究授業を推進し、個々の授業力向上をめざす。</p> <p>(2) 「学校組織の活性化・円滑化」「専門性の向上」に関して昨年度、肯定率が下がった「学校組織の活性化・円滑化」および「専門性の向上」に関する項目が全てにおいて肯定率が上昇しているが、未だ 50% に満たない肯定率であり、今後もより一層円滑でスリムな学校運営をめざして「業務の見える化」に取り組んでいく必要がある。</p> <p>(3) 「安全安心」 教職員「災害対策」肯定率 0.7% 増、保護者「災害対策」肯定率 1.1% 減 防災対策委員会が中心となって防災マニュアルの見直しおよび防災対策強化に取り組んでいる。年間を通じて行われる各行事においても、必ず防災マニュアルが添えられるなど意識は高まっている。今年度、防災に関する新たな取り組みとして「すぐメール」を活用した安否確認のテストメールを実施した。また日本赤十字社の防災士による PTA 防災講習会を企画するなど、今後も本校の取り組みについて積極的に情報発信し、防災に対する意識向上を図る。</p>	<p>【第 1 回】令和元年 6 月 26 日実施 内容：令和元年度学校経営計画・授業アンケート・本年度使用教科書等 《授業アンケートに関して》 ○保護者からすると、1、2 回書くともういいかなという気になるのではないか。アンケートがどのように日々の授業に活かされていくのか保護者にしつこいくらい伝えていくことが必要だと思う。 《教科書に関して》 ○新品のままと思われる教科書がある。保護者の方はどこかで使ってくれていると思っている。先生方は一部をコピーして使ったりしていると思うが、教科書として採用しているならば、1 年のうちどこかでいいので使用してほしい。</p> <p>【第 2 回】令和元年 11 月 13 日実施 内容：平成 31 年度 学校経営計画進捗状況・令和元年度授業アンケート集計結果・令和元年度学校教育自己診断・令和 2 年度 使用教科書等 《学校経営計画より人材育成について》 ○学校を信頼して子どもを通わせている。校長が人材を育成するといったが、早い段階からの育成を期待している。先生方には支援教育のプロとしてやっていただかないと困るので、自信をもって取り組んでほしい。 ○最近教員を希望する人が減っていると聞いている。希望して教員になったのであれば、自信と誇りをもってほしい。支援学校の教員は特に難しいのだから、若い人をみんなで頑張らせてほしい。</p> <p>【第 3 回】令和 2 年 1 月 29 日実施 内容：平成 31 年度学校経営計画(案)評価について 令和 2 年度学校経営計画(案)について 学校教育自己診断アンケートの分析について 《平成 31 年度学校経営計画評価について》 ・4 月から医ケアの通学支援事業が始まっているが、進めていく中で、どこに課題があるか保護者は理解できていない。教頭たちが頑張っているのも知っているが、保護者が理解できるよう見える化をすることが大切である。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 「安全・安心」と「本物」と「触れ合おうとする学校」を最大限に伸ばし、触育</p>	<p>(1) 環境の整備・改善、ヒヤリハットの活用で不用意・不注意な事故ゼロをめざし、子どもファーストの充実体制づくりに取組む。</p> <p>ア 「授業は教員の要の仕事」との意識で、PDCAサイクルを活用した、授業改善実践に取組む。</p> <p>イ 「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を更に有効に活用できるシステムの実践(カリキュラムマネジメントの確立)に取組む。</p> <p>ウ 「次期指導要領」の先行実践をめざし、新たな企画・実践(新スポーツ・文化・言語活動の推進)に取組む。</p> <p>エ 「教育環境」(ICT 関連含:タブレット、楽スタ(重力軽減訓練装置)、ロコモター(電動移動支援教具)等)の充実をめざし、ヒヤリハットの活用で不用意・不注意な事故ゼロに取組む。</p> <p>オ 「キャリア教育の一層の充実」をめざし、就労希望生の全員就労に取組む。</p>	<p>(1) 特に研究部・健康安全部・教務部・自立活動支援部・進路指導部・児童生徒部・通学部・行事部や、アレルギー/医食/給食委員会等が中心に各項目の実践を行う。</p> <p>ア実践に応用できる授業研究をめざし、研究授業を継続する。又重度障がいのある生徒への対応や、姿勢・運動・摂食・コミュニケーション等の専門性を向上させるため、全校年間研究テーマの設定に取組む。外部研修への参加等を通し自己研鑽する。学校全体の行事について、新学習指導要領を見据え、検討を深める。</p> <p>イよりきめ細かい指導に活用できるよう、個別の指導計画、個別の教育支援計画の見直しを通知表と連動し、「指導と評価の一体化」をめざす。</p> <p>ウ外部専門研究機関等と連携しながら楽スタ、タブレット型 PC の更なる活用に取組む。ポッチャをはじめ、新スポーツ等の取組みを充実、更に文化(アート)を取り入れた外国語(国際理解)・言語(読書)の活動の充実、又、自作教材(ロコモター(電動移動支援教具))の充実を図る。</p> <p>エ不用意・不注意な事故を防止するための意識向上のための行動計画を作成する。</p> <p>オ校外での見学・実習回数を増やし、社会性、就労意識の向上を図る。清掃・喫茶サービス等の技能や意欲の向上を図る。外部講師を招き「社会に出たときのマナーや心構えについて」の講義を実施する。</p>	<p>ア授業改善の学校教育自己診断による評価肯定率 85%以上 (H30 83.3%)</p> <p>イ個別の教育支援計画の様式や記入文章の改善肯定率 70%以上 (H30 65.5%)</p> <p>ウ新たな取組み(教育環境充実)の成果について学校診断評価肯定率 70%以上 (H30 63.3%)</p> <p>エ不注意な事故の発生ゼロをめざす。スキルアップのための新たな取組みの継続と学校教育自己診断による肯定率維持 100% (H30 91.4%)</p> <p>オ就労希望生徒の就労 100% 継続 校外見学・外部講師招聘回数 10%増 ⇒就職希望者の就労率 100%</p>	<p>【ア】△ 学校教育自己診断における「授業改善」に関する肯定率【73.9%】 昨年度より約10%肯定率が下がっている。分掌に関する仕事の整理や研修方法などの改善をはかり、授業改善について話し合える環境作りに取組む。</p> <p>【イ】○ 学校教育自己診断における「個別の支援計画や指導計画の活用について」の肯定率【71.1%】 個別の指導計画に関する研修後のアンケートから肯定的な意見が多く上がっていた。</p> <p>【ウ】△ 学校教育自己診断「指導方法等の開発(教育)への取組」に関する肯定率【63.4%】 昨年度とほぼ同じ数字であった。今後、教員の積極的な研修への参加を支援する。</p> <p>【エ】△ 学校教育自己診断「ヒヤリハット報告の活用」に関する肯定率【88.0%】と昨年度より3.4%減少している。保護者にとって学校が児童生徒の安全安心な場所であることは基本的な願いである。今後もヒヤリハット報告の意義について教職員間で理解を深め、インシデントや事故を未然に防ぐ取組をおこなっていく。</p> <p>【オ】○ 今年度も就労希望する3名の生徒全員の就職が決定している。</p>
<p>2 教職員の役割と責任を明確にして「高い専門性を有するプロ」をめざそうとする学校職育</p>	<p>(1) 個人主義ではなく、学校として一丸となったチーム学校の促進をすすめ、専門性向上に取組む。</p> <p>ア 学校運営にかかわる会議を一層スリム化する。ICTを活用した校務の効率化・円滑化についても取組む。</p> <p>イ 業務の見える化を心がけ、わかりやすい指示系統の組織(チーム)をめざし、適切な施設の安全及び危機の管理に取組む。</p> <p>ウ 新しく支援教育に携わる教員へのサポート体制の充実をめざす。</p> <p>エ 全教員が学び続ける教員として外部講師も招き、「主体的、対話的に深く」学びあえる研究授業とその広報・発表の実践に取組む。</p>	<p>(1) 特に進路指導部・研究部・行事部をはじめ、各種委員会等が学校の総力を挙げて、各項目の実践を行う。</p> <p>ア会議の効率化/ICT(情報モラル・リテラシーを含む)を活用した校務の円滑化の試行実施、会議の持ち方の共通ルールの実践に取組む。</p> <p>イ業務の見える化をさらに進めマニュアルの作成や様式の改善、電子データの活用に取組む。</p> <p>ウ引継ぎ資料の工夫により指導支援の根拠や理由、きめ細かな配慮事項を各自に伝達できるようにして全体の専門性向上を図る。</p> <p>エキャリア教育に関するワークショップ形式など教員が、主体的に参加し学ぶ喜びを実感できるような研修を工夫する。</p>	<p>ア校務の円滑化を進めることで、子どもと向き合う時間の確保肯定比率 75%以上 (H30 70.5%)</p> <p>イわかりやすい業務分担表やマニュアル整備肯定比率 40% (H30 37.1%)</p> <p>ウ校内研修の充実の肯定比率 60%以上 (H30 58.3%)</p> <p>エ研究授業・協議数 10%増 (H30 全校研修 17回)</p>	<p>【ア】△ 学校教育自己診断「ICTを活用した校務の円滑化」に関する肯定率【68.3%】と2.3%減少している。ICTの活用だけでなく必要な仕事の整理など改善を図る。</p> <p>【イ】○ 学校教育自己診断「学校組織」に関する肯定率は【47.9%】と昨年度より10%程度上昇となったが、まだ低い数字ではあるため、職場環境改善のためのアンケート調査等を実施し具体的な改善プラン提案をおこなう。</p> <p>【ウ】△ 学校教育自己診断「研修」に関する肯定率は【59.2%】と微増であった。今年度取組んだパッケージ研修の振り返りでは肯定的な意見も多く上がっていたため来年度もパッケージ研修を活用し授業力向上に取組む。</p> <p>【エ】○ 教育センターと連携したパッケージ研修や研究授業を18回実施 その他、個別の指導計画に関する研修2回実施した。 研修会数は合計20回となり、昨年度より10%増となっている。</p>

府立茨木支援学校

<p>3 「次世代育成の種」を植えようとする学校 植育</p>	<p>(1) 指導支援に関する情報共有や公務推進のための風通しのよい組織風土づくり(メンター・メンティの関係づくりの深化)に取り組む。</p> <p>ア 首席・指導教諭をはじめ、各教職員の適材適所での活用と、通勤方法・承認研修・サービスの適正維持に取り組む。</p> <p>イ 茨木の初任者等自主研修の継続及び毎週定期的な学習会の円滑実施継続や、管理職通信とブログによる共有化の継続に取り組む。</p> <p>ウ P T A や関係機関等と連携し、防災マニュアル(大災害時を含む)の継続的な見直しとライフライン断絶(下校困難)時の研修、訓練に取り組む。</p>	<p>(1) 特に事務・教頭・首席・指導教諭や、各種委員会等が中心に、次の各項目の実践を行う。</p> <p>ア 服務管理:通勤/研修/勤務の適正化 年に最低1回以上の抜き打ちチェックの継続実施</p> <p>イ 人事配置:首席/指導教諭の適材適所活用 ・茨木初任自主研修(9/24・12/17 予定)及び毎週定期的な学習会の円滑実施・管理職通信とブログによる共有化促進 ・長時間勤務の縮減と会計事務の適正化</p> <p>ウ 地域・P T A と連携して震度7以上の大規模災害を想定し、減災に向け備えを充実する。備蓄品の点検と使用体験等を行い、防災意識の向上の取組みを進める。 通学パスの新避難マニュアル、マップを作成する。 <u>校内花一杯活動を推進する。</u></p>	<p>ア 服務管理:通勤/研修/勤務の適正化 (1回以上)実施</p> <p>イ 人事配置:首席/指導教諭の適材適所活用 ・自主合同研(年2回)等、 ・学習会・通信(ブログ)実践 ・有休消化率10%増 ・財務規律に基づく適正執行</p> <p>ウ 防災意識について学校教育自己診断による肯定率 70%以上 (H30 66.2%)</p> <p>四季を通じて校内に花を植え、「花一杯」活動を実践</p>	<p>【ア】○ 通勤調査を2回実施の他、教育庁からの服務に関する通知について周知徹底をおこなった。</p> <p>【イ】○ 首席・指導教諭が連携し校内支援に取り組むことができた。 各担当首席が中心となり高度医療や個人情報、校内の人権に関する取組を進めることができた。</p> <p>有給消化率については、G20での休校日や夏季休業中の閉庁日の設定などにより消化率が例年に比べ伸びている。</p> <p>【ウ】△ 学校教育自己診断「災害対策」肯定率【66.9%】と昨年度より0.7%微増であった。PTA・地域と共同した防災(減災)・防犯体制の拡充に努めていく。</p> <p>地域の方から協力をいただき、高等部の授業などで校内に花の苗を植えることができた。</p>
<p>4 共生社会の形成に向け、自育</p>	<p>(1) 関係部署による校内体制の連携を図り センター的機能の拡充を行い、地域や各校種の学校に対し積極的な支援と連携を行う。</p> <p>ア 50周年(H31/9/28)の企画の具体化を進め、外部コンクール等に積極的応募し、その広報の充実を行う。</p> <p>イ 高度医療の国(委託)事業を継続し、医療的ケアの課題を明らかにしつつ、その充実のための実践を行う。</p> <p>ウ 最新で適切な情報源としてのHP・ブログの更新や、学校改善充実の取組み広報を、積極的・継続的に行う。</p>	<p>(1) 特に情報部・総務部や、各種委員会等が中心に、次の各項目の実践を行う。</p> <p>ア 創立50周年(H31/9/28)の具体化と広報に取り組む。ホームページを一層見やすいデザインに改良する。</p> <p>イ 学び続ける教員に必要な研修を継続し、ポートフォリオの導入、効果測定などを導入して効果的で効率的な研修に改善し、高度医療の校内体制の整備と充実を努める。</p> <p>ウ 学校紹介パンフレット(カラー版)とともに、地域に根差し、先進的取組みを積極的・継続的に発信する。</p>	<p>ア 50周年→実施→無事終了 外部コンクールや検定等への参加件数 12件以上</p> <p>イ 高度医療探究体制づくりの充実 完成年度としてまとめ作成</p> <p>ウ・HPブログ・コメントの更新件数10%増 (更新数H30約300回)</p>	<p>【ア】○ 創立50周年を祝う会については、児童生徒が活躍する取組として実施することができた。中学部では絵画コンクールに36名、高等部では英語検定に1名の生徒が参加をした。</p> <p>【イ】○ 人工呼吸器を使用する生徒の環境整備については保護者が外出できる体制を整えることができています。また実施方法について【高度医療を含めてマニュアルの整理】ができた。</p> <p>【ウ】△ ブログについてはほぼ毎日更新し令和2年3月現在 准校長ブログと児童生徒部ブログを合わせて205回の情報発信に努めているが、目標の数字を達成することはできていない。今後も校内外へ本校の特徴的な取組を丁寧に発信する。</p>